

第 32 回 原子力安全検討会 議事録

日時:2020年8月7日(木) 10:00~11:30

場所:WEB会議 JAEA Webex

参加者:

主査:宮野(法政大)、幹事:成宮(JANSI)

委員:飯倉(東芝)、大貫(MHI)、織田(日立 GE)、佐々木(関電)、関村(東大)、高田(JAEA)、中村^隆(阪大)、中村^武(JAEA)、村松(都市大)

委員候補:粥川(北海道電力)

常時参加者:藤崎(関電)

議題

1) 参加者の確認、資料の確認

成宮幹事より、参加者を点呼により確認。

2) 人事案件

成宮幹事より、資料 32-2 に基づき、原子力安全検討会、傘下の3分科会の人事案件の説明があった。検討会に関しては、新任委員として粥川氏が承認された。外的事象安全分科会に関しては、新任委員として加藤氏が承認された。

3) 前回議事録の確認

成宮幹事より、資料 32-1 の説明があり、脱字一か所を修正し、承認された。

4) リスク活用分科会活動

高田委員(リスク活用分科会主査)から、資料 32-3 により、技術レポートの発行が8月12日の目途であることから講習会準備についての説明があった。議論の結果、①講習会の対象レベル、組織、対象業務などを工夫すること、②研究機関などとの連携も考えること、③初級などの用語は工夫すること、④講習会はオンラインに加えオンデマンドで講義が残ることも考えること、を進めていくこととなった。主な質疑は以下のとおり。

Q:講習会の対象の組織、レベル、業務内容は何か？

A:複数の講義メニューを設けて、受講者が選択できることを考えている。

C:その方向でお願いしたいが、対象者はどのような組織か？

A:規制、事業者、エンジニアの人。研究者は考えていない。分科会で検討してみる。

C:研究機関と多面的な連携を大学では進めているので、そのようなフレームワークも必要ではないか。

C:他機関との連携することは考えてほしい。「初級」「中級」という言葉は「導入」「専門」などに置き換える事も考えてほしい。

A:了解。

C:講習会は説明だけでなく質疑が重要。過去の講習会での質疑を FAQ にして技術レポートに入れているが、質疑の時間を十分にとるつもりである。

Q:他標準との関係は？リスクに対してどう取り組むかは、重要なことである。

A:PRA 標準やリスク情報活用標準との連携は続けていく。

C:ある分野を深く掘り下げることではなく、様々な標準のエッセンスを理解し全体として俯瞰して考えられるような専門家が必要。

C:連携については、標準活動基本戦略タスクの課題かとも思うが、本検討会でも標準全体のことをみて、考えてほしい。

5) 外的事象安全分科会活動について

高田委員(外的事象安全分科会主査)から、資料 32-4-1 により分科会での技術レポートの構成案と骨子、そして電事連からの意見の説明があった。加えて資料 32-4-2 によりパンデミックにかかる学会誌投稿提案書の紹介があった。議論の結果、①4章のタイトルを見直すこと、②標準委員会が行うべきことを記載すること、③3章で外的事象リスク評価をどうするか、設計はどう考えるかを記載すること、④構造設計の分野から理解されるものであること、⑤パンデミックのリスク評価だけに偏らないように、⑥学会誌投稿は標準委員会ではなく個人名で出し、文中に分科会で活動した、と記載すること、であった。主な質疑は以下のとおり。

Q:3章と4章で外部ハザードのリストアップはどう違うのか？

A:3章(3.3節)はリストアップの考え方を、4章(4.1節)ではその具体例を示している。

C:4.2で外部ハザードの特定がされているように解釈してしまう。

A:4.2のタイトルを見直すことを検討する。

Q:5章の提言は重要である。どの組織に向けたものか？それとも標準委員会で行うものか？規格類協議会、事業者、規制が行うべきものもあると思う。

A:報告書7.2は書き直す。標準委員会だけに絞らずに外部の組織も含めて対象とする提言を記載する。技術レポートなので標準委員会として行うべきことを記載する。

C:報告書から技術レポートへ移行する考え方が重要である。その意味で、特に標準委員会は何をすべきかを具体的に書いてほしい。

C:外的事象 PRA の標準の共通化を考えるべきではないか？外的事象リスク評価をどうするか、設計基準とそれを超える事象との関係から「設計」とはどう考えるのか、についても検討してほしい。地震安全だけでなく外的事象全般について、記載してほしい。

A:3章で考え方を記載することを試みる。

C:構造分野の専門家が理解できるようにしてほしい。期待されていると思う。リスクが理解されるようにお願いしたい。

C:そのとおりである。学協会規格類協議会での提言でも出ている。

Q:パンデミックのことだが、入れることで混乱しないか？外的事象に含めてしまうことは良くない。電気協会でも議論していると思うので、リスク評価だけにならないように連携してほしい。

A: マネジメント、体制へ影響を及ぼすので、原子力安全に直接脅威となる外的事象に対するリスク対応とは異なると思っている。関係性については留意して記載する。

Q: 学会誌解説記事にパンデミックのことを記載するのは意欲的である。提案書のまとめのパンデミックの防災への影響についてはもう少し触れればどうか？

A: 解説記事なので調査した事実事項を記載する。ご指摘の点は重要なのでまとめにおいて記載を考える。

Q: 学会誌原稿締め切り前に原子力安全検討会で、みるのか？

A: その方向でお願いしたい。

C: 調査に加えて考え方も書いてしまうと中途半端になるおそれがある。

A: 調査結果をメインにする。

C: パンデミックに対応する大局的な示唆があればよいと思う。

Q: 標準委員会の組織名は書かずに、個人名と所属組織にならなか？標準委員会の中の分科会で活動していることを書くくらいにならないか？

A: 標準委員会原子力安全検討会外的事象安全分科会、は削除する。そして文中に、標準委員会の分科会で活動している、との趣旨を記載する。

6) 次回日程

11月9日の週と16日の週で、委員に都合を聞く。

以上